

健康食品を勧められて…!?



事例 習い事の先生から、健康食品を勧められた。料金が高いと思ったが、断りきれずに購入した。後日、会員登録の案内と報酬システムなどが書かれた書面が届いた。会員になるつもりはないので、解約したい。

トラブル回避のポイント

◆商品・サービスを契約して、次は自分が買い手を探し、買い手が増えるたびにマージン(報酬)が入る商法がマルチ商法です。
◆親しい友人や習い事の先生から「病気が治る」「必ず痩せる」などと誇張して説明されたり、しつこく勧誘されたりしているケースが目立ちます。
◆連鎖販売取引に該当した場合、法定書面を受け取ってから20日以内であればクーリングオフができます。困ったことがあれば相談しましょう。

～国際交流員キンバリーのこまつ新発見～ 私のふるさとのお正月を紹介します!

私のふるさとシンガポールは多民族国家で、民族によってお祝いの祝い方が異なります。

1月1日はシンガポールでも祝日ですが、重要な日ではありません。マレー系には正月より「ハリラヤプアサ(イスラム教の断食明け祝い、6月末～7月初め)」という祝日の方が重要で、インド系は「ディーワリー(インド歴の新年、10月末～11月初め)」に新年を祝います。中華系は旧正月(今年は1月28日)にお祝いをしますが、日本のお正月との違いを紹介します。

◇初詣 日本人は多くの人が神社へ初詣に行きますが、シンガポールでは仏教徒がお寺へ行き願い事をします。

◇飾り 飾りや服は縁起の良い色である赤を好みます(最近では、ダサイと思う若者が多く、減っていますが…)。提灯、結び紐、金魚、パイナップル、切り紙細工、花、猫柳などが縁起物とされています。干支のデザインも人気があり、また「倒福」(「福」という文字を逆さまにしたもの。「福が来る」という意味の言葉と発音が同じ)も家々に貼られます。◇お年玉 紅包(ホンバウ)というお年玉があります。日本ではお年玉は子供にあげるものですが、シンガポールでは大人でも未婚であればもらえます。金額は偶数だと縁起がよく、特に「8」が良いとされています。

まだまだあって書ききれませんが、シンガポールの文化を知っていただければうれしいです。



みまっし、きくまっし 小松の方言

連載 227

加藤和夫 ●金沢大学人間社会学域教授・日本語学

方言談話資料に見る 小松方言の特徴 その11

丸山町方言の自然談話④

前回までと同じく、市内南東部の山間の集落丸山町の方言談話を紹介します。2名の話者A・Bとともに丸山町生え抜き(A大正8年生まれ・男、B明治43年生まれ・女です。文字化にあたってはこれまで同様、表音的片仮名表記(文節分かち書き)で示し、適宜()内に共通語訳を付し、傍線部には簡単な解説を付しました。

B マルヤマワ シラミネカラ(白峰から) キタモノア オランナー。
A マルヤマワ キタモノア オラン。スノダニワ(須納谷は) オルカモシレン オダケガ(織田家)。(中略)

付記…本連載の第1回は1998年4月でした。当初はこんなに長く続けることになるとは思いもしませんでした。気が付いたら19年目が終わろうとしています。この度、諸事情から来月号で本連載を終えることになりました。長年ご愛読下さった皆様に、改めて御礼申し上げます。

・カンデ…「担いで」の意味のカンデは、小松市の山間部や白山麓の白峰方言などで聞かれます。
・イッタンニヤワレ、オッタワレ、ウンニイッタヤワレ…文末詞ワレは、話し手が相手に「くだよ」と訴えかける場合に使われます。
・アーシャ、アーシ…旧能美郡の方言では、このように一部の2拍名詞(頭高のアクセント)で1拍目が伸びて発音される特徴があります。

【解説】
A マユオカ。ソレアー カーチャン イクツグライノ トキヤ。
B ソレ イクツヤ オボエネーケド ソレガーワタシラ マユ コシラエタラ ソノ マユオリ ホラ ヤマゴエ イクツモ コエタリアガツタリ ソエツテ イケテ(いらっしやって)。ホイト コンド アーシガ ミツカホド イトーテ オエン(痛くてたまらない)。

B ホユト マユオ カンデー ヤマゴエデーアレア ドコ イッタンエ アノ マユウンニ(売りに) イッタンニヤワレ。ホラ イチニチガカリデ アーシャ イテ イツテクルトイッカモ(何日も) アーシャ イター ユーテワ オッタワレ。マユオ ワタシラ シタン。マユ カンデ ソコエー ウンニイッタヤワレ(売りに行ったんだよ) マユオ。

歴史の舞台裏

連載 最終回

市民の皆様へ パスザバトン!

『新修小松市史』は、Ⅰ期10巻、Ⅱ期3巻を発刊し、今年度は『産業編』を予定しています。

昨年は、小松の石文化が日本遺産に認定されるというビッグなニュースが飛び込みました。長い歴史の中で先人が創り上げた石の造形美を現在もなお受け継ぎ、技術力と芸術力を生み出しました。この技術力を、市史では資料の中から見出し、今回の『産業編』で紹介しています。

石の生産は、脈々と受け継がれていますが、小松の誇れる産業はそれだけでなく、繊維産業、工業、鉱山業、温泉業、農林水産業も盛んで、特に繊維産業、鉱山業は、戦前の経済を大きく支えました。小松製作所の生産力は、現在も産業の中心として、当市の柱の一つでもあります。

市史では、それぞれの歩んできた道のりを資料から紹介しますが、その収集には委員の大変な苦労がありました。経済分野の資料は、年月が経てば処分されることが大半で、これを補うには従事者からの聞き取り調査しかありません。しかし、生の声を得るにも取材を断られることが多く、資料収集は困難の連続でした。

このように市史の調査は地道であり、市民あつての調査なのです。今後も新たな史実を求めて、**パスザバトン**。市民の皆様が先導してくださいれば、その集まった声が歴史となります。

産業編集表紙

図書館市史編集担当 ☎24・5315



▲縁起物の切り紙細工などの飾り